

時代とらえ情報提供



安全・安心対策の重要性を改めて認識(取扱説明書の標準対応とビジネス戦略セミナー)

大阪産業人クラブ(山口多賀司会長)は「重大な責務を持つ工場長責任者等が集まり、工場管理・業務管理など各職場で直面する問題解決に向けて連携を」という趣旨の下、1965年2月に関西工場長連盟として96人が参加し発足した。その後、86年に関西工業人クラブ、87年に大阪工業人クラブ、88年に大阪産業人クラブへの改称を経て、90年に大阪産業人クラブとなり、2010年に45周年を迎えた。

企業経営者の相互啓発の場

「硬軟」で交流の輪

この間、時代に合った組織づくりを展開中堅・中小企業経営者が必要とする問題点をとりまき、講演会や研究会、工場見学会、国際交流を実施するなど、その時々最新の情報を提供することで、会員の経営に資する事業を行っている。現在の会員は正会員の企業経営者、特別会員である大阪府知事や大学・公設試験研究所、経済団体関係者らで構成されている。45周年を機に会員増強を図り、この間、12社が新規に加入。現在の会員数は159人。具体的な活動は運営委員会(田中太一朗委員長・タナカカメ会長)で計画し、これに専門委員会であるテクノロジ、産業人フォーラム、ニユーエフ、ゴルフの各部会が連携して、会員同士が交流を深める場づくりを行っている。

ウェブサイトを(www.osaka-sangyojin.jp)も充実が図られ、クラブの行事や活動紹介など、会員間の情報交換の場としても活用されているほか、全国の産業人クラブとも密接に連携し、活動の幅を広げている。現在の主な活動は、講演会やセミナー、経営研究会の開催のほか、専門委員会活動や工場見学会、ゴルフ大会、海外視察、情報サービスの提供など。

講演会は各界で活躍する著名人を講師に、政治・経済から産業・科学技術に至る企業経営に役立つテーマで実施している。セミナーおよび経営研究会は会員のコミュニケーションと異業種交流に力点を置き、経営や技術・商品開発などをメインに企業経営者の相互啓発の場となっている。会員の意見発表のほか、日刊工業新聞社の記者による産業情報提供なども行われる。

各種試験・研究機関や先進的な工場を対象にした見学会、国際化が進む産業界の動きに合わせた海外視察など、多岐にわたる活動が行われている。大阪産業人クラブの活動の柱となっているのが専門委員会活動。テクノロジ部会(野田賢一部長)は「野田賢一部長」が中心となり、最新の技術情報や製品に関する情報をいち早くキャッチし、会員のモノづくり企業などに技術情報を共有できるように、セミナーや工場見学会を行うことで、技術開発のヒントになるような活動を行っている。

直近では、正木秀樹・シダアート執行役員を講師に迎え、「取扱説明書の標準対応」と「ビジネス戦略」と題したセミナーを開催。消費者庁の設置により事業者による製品の安全・安心対策が重要視される中、企業のリスクヘッジ、取引先やユーザーへのセーフティーマネジメントの戦略的構築と、安全度の高い取扱説明書とはどのようなものなのかなどについて聞いた。自社取扱説明書を持参して正木執行役員に評価を依頼するなど、参加者の安全・安心への関心の高さをうかがわれた。



昨年10月の落語を聞く会では目の前の熱演に落語の面白さを実感

昨年11月に大塚塚ゴルフクラブで開催した第88回大会では、村田節子ロー取締役が男性陣を尻目に優勝を勝ち取った。実は前回の第87回では村田節子ロー社長が優勝しており、企業経営同様の夫婦二人三脚に、参加者も拍手喝采であった。

こうしたさまざまな活動を通じて、異業種間交流の輪は広がりをみせつつある。45周年を迎えたことを機に、「企業経営に携わる人々が集い、企業経営情報などの交換と親睦を通じて自己啓発や強い創造力を生み出す」というクラブの目的をさらに強固なものとするため、積極的な取り組みを展開する考えだ。

大阪産業人クラブ

概要

1965年(昭和40)2月27日設立 会員数 159人
事務局所在地 = 大阪市中央区北浜東2の16
(日刊工業新聞社大阪支社内)
電話 = 06・6946・3348



山口 多賀司氏

(非破壊検査社主)

産学官連携の橋渡しを

大企業と違って中小企業は、外部との付き合いの幅が狭いことから、情報が得にくい環境にあるのは事実です。その中でも、産学官連携で研究開発に取り組む中小企業も多くありますが、ただ「一社一社が個別の動きをするだけではなかなか成果を得ることはできません。そこで、大阪産業人クラブが果たすべき役割を果たし、産学官連携をさらに

進めていく必要があります。相手があればその都度橋渡しできるような、大学や研究機関との交流を深めていかなければなりません。加えて行政とのパイプづくりが技術開発の促進には欠かせないことです」

「具体的な取り組みについては、技術の構築にはさまざまな『発想』が不可欠です。基本的には1次、2次、3次発想の段階を経ることで最終的な技術開発につながりますが、なかでも「何が必要なのか?」、また「こんなことができれば?」という発想(1次発想)が原点であり、今の日本には必要です。これを基

に産学官で研究が活発になつてほしい。それには異業種交流を柱に1次発想が生み出せる組織づくりも必要です。身の回りから起こる発想が技術開発につながりますから、メンバーがお互いに語り合うことによって発想を導き、産学官共同開発につなげる。これにより一社ではできない大きなことが実現できます」

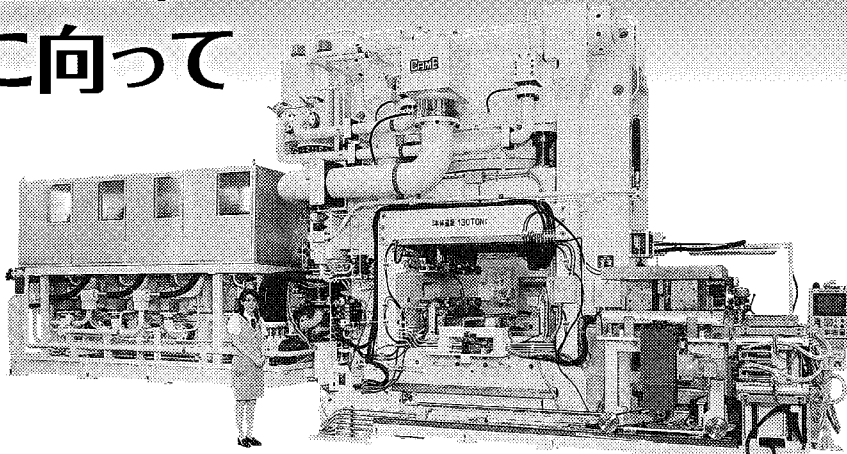
会長インタビュー

特集・挑戦する日本の経営者たち

PRESS & PLANT
TANAKA KAME CO., LTD.
SINCE 1919

油圧式粉末・鍛造プレスのパイオニア

お客様のニーズと共に90年
次世代100年に向けて
チャレンジ!!



30000KN 温間鍛造プレス

大阪ものづくり優良企業賞2010 優良企業賞 受賞



株式会社 田ナカカメ
TANAKA KAME CO., LTD.

■本社・工場/〒573-1132 大阪府枚方市稻堤田近1-3 Tel.(072)857-3706 Fax.(072)855-0660
■中国上海事務所/上海市古北路678号 同設大厦21層2101室

製造品目 ■粉末成形プレス ■粉末用サイジングプレス ■温・冷間鍛造プレス ■精密深絞りプレス
■ボックエンディングプレス ■熱間付ホットプレス ■サーボプレス

URL: <http://www.came.co.jp>

かけがえのない社会資本

今、既設の産業・社会・自然環境などのさまざまな
社会資本の寿命を延ばし、安全性・生産性を高めるため、
非破壊検査技術が生かされています。



人と技術のあいだに

非破壊検査株式会社

本社/〒550-0014 大阪市西区北堀江1-18-14 Tel.06(6539)5821(代)
東京営業本部/〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-4-9 日本ビル Tel.03(5651)0311(代)